



タイ教育旅行の誘致に積極的に取り組むTAT

～評価の高い素材の豊富さと親日国としての魅力～

タイ国政府観光庁(TAT)は、2013年度の重点プロモーション分野の一つに「教育旅行」を掲げ、修学旅行などの誘致拡大に向け取り組みを強化している。教育旅行を受け入れるために必要な条件やインフラが整うタイは、親日国という強みも活かし、アジアの教育旅行デスティネーションとしての地位向上を図る。

受け入れインフラの総合力が強み

海外を目的地とする教育旅行は、国際交流の大切さを教え、国際性を身につけるきっかけを与えるのが大きな目的だ。それには感受性豊かな若者たちが安心して学べる受け入れ環境や、学ぶべき学習素材の存在、大人数での移動や交流をスムーズに行える交通環境が必要となる。その点、タイは大きなアドバンテージを持っている。タイは2012年には約134万人もの日本人旅行者を受け入れており、観光とビジネスを含め人的交流の土台が、しっかりと築かれている。日本人を受け入れることが、タイの現地社会にも組み込まれていることに加えて、日本からタイへ数千人規模の移動を可能にする航空座席供給力もすでにあるわけだ。

そのうえで、タイには教育旅行に適したいくつかの特徴がある。親日国であり、日本人の生徒・学生を受け入れることに積極的な現地教育機関の存在や、世界水準の医療や先進国並みの衛生状況が支える安心感、日本から5～6時間のフライトで到着できるほどよい距離感、物価の安さなど、理想的な複数の条件をクリアできるタイのような国は決して多くない。

さらにタイには歴史文化遺産や手つかずの大自然といった、格好の教育旅行素材が豊富にあるのも特徴だ。独立を保ち続けてきたタイには、歴代王朝の文化が受け継がれ守られ、現在も残る。史跡も数多い。世界文化遺産の「古代都市スコタイと周辺の古代都市」「古都アユタヤ」「バン・チアンの古代遺跡」をはじめ、首都バンコクや北部の中心都市チェンマイには歴史的寺院や王宮跡がある。ほかにも東北部にはアンコールワットの原型ともいわれるピマーン遺



跡や、映画『戦場にかける橋』の舞台となったクワイ川鉄橋などもあり、さまざまな素材を教育素材に活かせる。

8月には50名規模の現地視察旅行も実施

TATはタイへの教育旅行の誘致拡大を目指し、教育現場の先生方を対象に現地視察旅行を実施した。まずは教育旅行の目的地としてのタイの魅力を実際に確かめてもらおうとの狙いだ。今回は8月7日～11日の4泊5日の日程で実



バトゥムワン・デモンストレーション校

施し、東京・名古屋・大阪・福岡の各出発地から、校長や教頭を含むそれぞれ10名ほどの先生方が参加し、主催者側を含めて合計約50名の視察団となった。

バンコクでは公立共学校の「バトゥムワン・デモンストレーション校」や「ヨティンプラナー校」、チョンブリ県では私立共学校の「カセサートラボラリィ・スクール・マルチリンガル・プログラム校」を訪問。学校側の説明を受けたうえで校内を視察した。研修旅行に参加した先生方は各校の教育レベルの高さを再認識し、日本語教育を行っている学校もあることから、学校訪問での生徒同士の交流がスムーズに行える点で評価が高かった。またタイは日本と同様に英語教育にも力を入れており、英語による交流も「お互いに外国語としての英語を操りながらコミュニケーションするからこそ学べることもある」など、前向きに評価する声があった。



ヨティンプラナー校で日本を勉強する学生が日本語で質問

学校訪問・視察以外にも、ワット・ポーやワット・アルンといったバンコクを代表する仏教寺院や、タイ文化をショー仕立てで紹介するサンブランリバーサイド(旧ローズガーデン)なども見学。最終日にはTATのアムノイ東アジア支局長の出迎えを受け、タイ教育旅行に関するワークショップにも参加した。

視察旅行に参加した先生からは、帰国後のアンケートで「バンコクやアユタヤ遺跡は教材として面白いと思う、目的のひとつであった学校訪問も充分対応できる(帝京大学中学高等学校 武山氏)」、「20万円程度の旅行費用で考えれば、候補地にタイを加えることもできる、また今回訪れた学校は日本の高校と交流を希望してい

るので、前向きに検討したい(拓殖大学第一高等学校 河田氏)」といった意見が寄せられたほか、「アジアは初めてだったが、タイの人たちは生徒をはじめ、礼儀たたく、親日家でもとても新鮮な印象を持った(錦城高等学校 梶原氏)」などの声も寄せられた。



サンブランリバーサイドでオーガニックファームについてレクチャーを受ける

「高校生クイズ」の準決勝の舞台にタイ

高校生が知識やチームの団結力を競うテレビ番組「高校生クイズ」(日本テレビ)の準決勝の舞台にタイが選ばれ、8月中旬に現地取材が行われた。海外を舞台とする高校生クイズは、勝手のわからない外国で、知識だけでなく知恵や機転、体力、チーム力を総合的に駆使してサバイバルする能力を試すのが狙い。高校生には現地の飲食屋台に飛び込み、屋台の売り上げアップを図るといったミッションが与えられた。高校生は自力で事態を切り拓かねばならないが、こうしたチャレンジを成功させ、番組に仕立てるには、現地の治安、衛生環境、交通インフラが一定のレベルになくては不可能だ。今回のタイの選定にはタイ側は一切かかわっておらず、あくまでもテレビ局側の判断でタイを選定。TATに協力を要請してきた。それだけにTATでは「タイには日本の高校生が存分に力を発揮できる環境が整っていると、テレビ局側が認めてくれたことに意味がある」としている。同番組は9月13日に放送された。

「旅博2013」会場で「アメージング・タイランド・セミナー」



開会式にタイ国観光スポーツ・ソムサック・ブリーシーサク大臣が出席(写真右から3番目)

タイ国政府観光庁(TAT)は9月14日、東京・台場の「旅博2013」会場で「アメージング・タイランド・セミナー」を開催。TATのサンスーン・ガオランシー副総裁の挨拶に続き、東京事務所・藤村喜章マーケティングマネージャーとフォートラベル事業推進本部営業部の三村真氏が「タイでの体験をシェアしよう」のタイトルでパネルトーク。また、観光庁ブースでは、ヒューマンパペット舞踊、タイ北部伝統紙きり、クイズ大会など行われた。

TATとタイ空港公団がMOU締結

TATと、タイの主要6空港を傘下に持つタイ空港公団(AOT)は8月23日、海外からの旅行者の誘致促進に関する覚書(MOU)を交わした。2013年9月1日に発効し16年8月31日までの3



年間有効な今回のMOUにより、マーケティングやプロモーション、調査など広範な分野での協力関係の構築や人材交流の促進が図られる。TATのスラボン・サウエートセラニー総裁は「多くの外国人旅行者にとって国際空港はその国の顔であり、空港公団と協力関係を築ける意味は大きい」とMOUの成果への期待感を示した。

女性向けガイドブック『キレイを叶える週末バンコク』発行

タイは知る人ぞ知る女性のための美容天国。日本の一流デパートでタイ製のアロマやコスメが販売されるほど、一部ではタイ製美容関連商品の人気が高かったり、スパやマッサージが割安に楽しめたり、その実態は文字通りの美容天国だが、それを知る日本人女性はまだまだ少ない。そこで、タイ在住のエディターやタイ好きライターが、ビューティーガイドの決定版として『キレイを叶える週末バンコク』を制作。ダイヤモンド出版から発売された。お勧めのスパやマッサージ店、ビューティーサロンを紹介するだけでなく、ショッピングアイテム、ショッピングスポット、タイ料理店などの情報も満載。美容に気を使う現地女子のロコミ付き美容スポットや、彼女たちの愛用コスメも紹介している。



東京事務所 〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-7-1 有楽町電気ビル南館2F TEL.03-3218-0355
 大阪事務所 〒550-0014 大阪市西区北堀江1-6-8 テクノープル四ツ橋ビル2F TEL.06-6543-6654/6655
 福岡事務所 〒810-0001 福岡市中央区天神1-4-2 エルガーラ6F TEL.092-725-8808
 インターネット <http://www.thailandtravel.or.jp/> (日本語) <http://www.tourismthailand.org/> (英語)
 Facebook [@tat_jp](http://www.facebook.com/thailandtravel.or.jp)
 Twitter

